



**F-NIPPON**

# *RACING* **PRESS**

*apan*

**2011 JAPANESE CHAMPIONSHIP**  
**Formula NIPPON Round3 FUJI**



# 2011 Formula NIPPON Round3 FUJI



**2011 JAPANESE CHAMPIONSHIP**  
**Formula NIPPON Round3 FUJI**  
**7/16-17**

Editor

吉川絹恵

Photo

中村佳史



# 集中力が問われる予選・決勝

# ONE DAY開催!

通常のレースは予選、決勝と二日間に分けて行われるが、この大会は日曜日の午前に予選を行い午後決勝レースを行うONE DAY開催。ファンにとっては1日で予選と決勝が楽しめるいつもの異なるフォーミュラ・ニッポン、しかし選手にチームにとってはクラッシュや、予選のセッティングの失敗は絶対に許されない集中力が問われるレースでもある。ワンデーレースはレース経験の豊富なベテラン勢が有利とあって、走り込みの少ない新鋭勢には試練のレース。富士をホームコースにする中嶋一貴にとっては経験十分のコース。小暮卓史やJ・Pオリベiraにとっても絶好のチャンスでもありベテランと新鋭の激しい戦いが予選から注目される。





# A・ロッテーラが逆転で今季2勝目!



フォーミュラ・ニッポン第3戦は灼熱の富士スピードウェイで行われた。予選から激戦となりQ3では1号車をドライブするチームインバルのJ・P・オリベイラが36号車A・ロッテーラと同タイムを叩きだし今季初のポールポジションを獲得した。2位には同タイムのA・ロッテーラ、3位には37号車の中嶋一貴が続いた。決勝は44周で争われ、2回のタイヤ交換が義務付けられている今回のレースは走行距離200キロで行われた。決勝スタート時点の気温は34度、路面温度50度という猛暑の中を好スタートを見せたのはポールポジションの1号車J・P・オリベイラ。しかしスピードで勝る予選2番手のA・ロッテーラがメインスタンド前のストレートで早々と抜き去りトップに浮上。



# 平手晃平は2位入賞、初の表彰台を獲得。

スタートで失敗した中嶋一貴によって3位に浮上したのは2号車平手晃平だ。終盤に入っても2台のバトルが繰り広げられたがロッテラーが44周を走り切り今季2戦2勝を飾った。2位には平手が入り今季初の表彰台を獲得。中嶋は3位でフィニッシュ、3連続表彰台を獲得した。

## [決勝結果]

優勝	36	PETRONAS TEAM TOM'S	アンドレ・ロッテラー
2位	2	TEAM IMPUL	平手 晃平
3位	37	PETRONAS TEAM TOM'S	中嶋 一貴
4位	1	TEAM IMPUL	ジョアオ・バオロ・デ・オリベイラ
5位	41	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	塚越 広大
6位	8	Team KYGNUS SUNOCO	石浦 安明



2nd



# QUALIFYING



## POLE POSITION

今回の予選はTOM'SとIMPULとのガチンコ勝負となった。Q1トップタイムを叩き出したのはJ・P・オリベira。セッション終盤のワンアタックに賭けた。想定どおりのアタックでトップタイムを見事に書き換えたのだ。Q2のアタックは再びオリベiraがトップを奪い平手が2番手に付けた。ポールポジションを決定するQ3は7分間で行われた。先行でアタックしたオリベiraは1分25秒263を叩き出し、いきなりトップにたった。その後ロッテラーがオリベiraに迫る同タイムをマークしたが、レギュレーションにより先に出したドライバーが上位にねり、オリベiraが今季初のポールポジションを獲得した。

